

# 新日本保険新聞

(損保版)

第1~4月曜日発行  
発行所 新日本保険新聞社  
大阪市西区堀本町1丁目5-15  
(郵便番号550-0004)  
電話 (06) 6225-0550 (代表)  
FAX (06) 6225-0551 (専用)  
購読料 1か月2420円  
(消費税、送料込み)

©新日本保険新聞社 2024

## 「エコ・サステナブル〜ゼロエミの挟間で〜」

日本損害鑑定協会

### 第9回損害鑑定 フォーラムを開催



会場のようす



太田会長

日本損害鑑定協会(太田英俊会長)は昨年12月2日、東京千代田区の御茶ノ水ソラシティで第9回損害鑑定フォーラムを開催した。今フォーラムは「エコ・サステナブル〜ゼロエミの挟間で〜」をテーマに掲げ、近年事故が多発している太陽光発電と、損害鑑定業務で悩みの多い産業廃棄物処理の二つの個別テーマについて、専門家による講演や会員メンバーと専門家を交えてディスカッションを行った。当日、会場には200名以上が参集し、全国の同会所属の損害鑑定人向けにWEB配信も行った。

### 「太陽光発電」「産業廃棄物」をテーマに 専門家と会員メンバー交え ディスカッションも

一つ目のテーマの「太陽光発電関連事案への対応」では、FIT(再生可能エネルギー)の固定価格買取制度開始から10年以上が経過し、発電設備の多くが稼働実績を重

ねていく一方、保険請求は増加傾向にあるなかで、実務において直面している課題について損害鑑定人はどう考え判断するべきかを考察した。前半のメンバーは、丹羽周一氏(株式会社トラストクレームサービス)、今井誠氏(株式会社名鑑)、上川眞氏(内山鑑定株式会社)、具島信介氏(株式会社高本損害鑑定事務所)、和出崇氏(有限会社遠州損害鑑定事務所)の損害鑑定人5氏と合同会社オフィス協働の代表として多くの保険事故を経験している山吉武氏の計6名。損害発生の

各局面における考え方に ついてディスカッションを行った。後半は、前半のディスカッションを受け、会場参加者およびWEB視聴者から強度の低い架台に設置されたケースへの対応方法や製品に瑕疵があった場合の求償への対応といった質問を受け付け、前半同様のメンバーで論議を進めるといった新たな取り組みを取り入れた。

二つ目のテーマの「産業廃棄物処理に関する討究」では、昨年の物価動向に引き続き、今年も産業廃棄物に着目。従来、損害保険において費用保険金の取扱いだいた残存物取片付け費用は、近年の保険商品では内枠払いや限度枠が拡大されたことなどで、その費用が争点となる場面も多くなっ

てきている。関係法令の厳格化も進んでおり、産業廃棄物処理に関する理解を深めておく必要がある。こうした動向を踏まえ、産業廃棄物処理の今と今後を損害鑑定人の立場から掘り下げ、考察した。

冒頭、一般社団法人企業環境リスク解決機構理事兼事務局長の子安伸幸氏が「産業廃棄物に関する基礎知識と費用について」をテーマに講演した。後、同氏と産業廃棄物処理事業を展開する株式会社浜田の堀智広氏を交えてスクラップパブリューを中心とした論議を行った。損害鑑定人のメンバーは佐々木孝浩氏(株式会社三和鑑定事務所)、青山翔太氏(株式会社高本損害鑑定事務所)、大沼義邦氏(株式会社アスカ総合鑑定)、久禮田健太郎氏(西日本鑑定株式会社)、丸山敦氏(有限会社むさし野損害鑑定)の5氏。

最後に、サーキュラーエコノミー型(循環型経済)事業を展開する株式会社新菱(三菱ケミカルグループ)の守谷大輔氏により、同社の太陽光パネル高度リサイクル事業の紹介とパネル処理の現状、今後の課題に関する講演が行われた。当日はフォーラム開催に先立ち、太田会長が挨拶。「今年も早くから雪害や地震、台風、集中豪雨といった自然災害が多発しただけでなく、特定修理業者に関する事案対応など、損害鑑定人の皆さんが日々多忙のなか、多くの方々の協力によりこうして損害鑑定フォーラムを開催することができた」と関係者に向けて感謝の意を表した。会の最後にはフォーラム実行委員長の田中公成(ゴミの量を減らすことも忘れてはいけない)と述べた。